



強い、そして美しい  
そういうお前に、俺がずっと  
惹かれていた

お前のその冷徹な目が  
いつか俺を見てほしかった

なのに、あの日  
その目に火がかかったように  
熱くなっていたが  
俺のためではなかった

悔しい  
だからもっともっと  
強くなりたい

誰よりも強くなって  
その姿をお前の  
記憶に刻んでやる

二人組のヒーロー活動で  
半分野郎と一組になった



宝石強盗だ!!



この機会を利用して  
絶対あいつに俺の英姿を  
見せてやる



おいー半分野郎  
XXX町の百貨店  
宝石強盗事件が発生した  
そうだ

俺が先に行く  
すぐに解決してやるから  
オメエは警察を  
呼んで来いっ

キヤンズぜ!!  
百貨店なんかの人の  
多い室内は俺との相性が  
悪いけど  
ちよっと力を抑えれば  
問題ないだろ



おい!どこだ  
俺のいるとこに  
宝石強盗なんか  
やるアホが!?



おやおや  
爆豪君ではないか

僕ってほんと  
ラッキーですね

はあ!?  
アンラッキーの  
間違いだろう

何をおっしゃってるの  
だって、爆豪君を倒せば  
僕は有名人に  
なれるんですよ

クソツ こいつ粘々して  
普通の爆じゃ破らねー

爆力を上げれば破れる  
かもしれねえが  
後ろには一般人がいるし  
そいつらに中つてしまう……

寝ぼけてんじゃねえよ  
テメエのような  
雑魚が俺を倒すなんて  
百年はえつつうの



ふふふ…爆豪君が怖がつてる表情が最高ですね

でも安心して僕はそんな残酷のことする訳ないでしょう僕の粘液は生物を融けないの熱傷程度の傷を作るだけ

ほら、雄英のエリート様にしちゃ傷のうちにも入らないでしょう？  
しかし、もし皮膚の薄いところに熱傷を作ったら爆豪君がもっと可愛い表情を見せてくれますかね〜♡



ちよつと ちよつと  
逃げちやダメって  
言っただんでしょ!?

ごちやごちや  
言っただんじやねえよ  
こいつらがいなくなったら  
オメエを倒すのに  
一分もいらねえよ

クソーあいつがもうすぐ来る  
その前にこいつを  
倒さなきゃ……

残念 これからだというのに  
観客を行かせちゃうなんて  
つまらないなあ

爆豪君の可愛い姿  
皆に晒すチャンスなのにね

何!?  
ズボンが……

爆豪君は自分の個性に  
自信満々のようだけど  
僕にはその個性は効かないよ  
それどころか  
これから君は僕の個性に  
やられてしまうわよ  
見た目には攻撃力がなさそうだけど  
正しいところに使えば  
相手の闘志をすぐにぶんどれるのよ

テメー  
何する気だ



あの子を  
一人残して  
大丈夫なの

大丈夫よ  
あの子は爆豪だよ  
まだ生徒だけど  
プロのヒーローと匹敵する  
力を持つ子だ

……  
この野郎

やめろ  
ぶっ殺す……

いい顔してるぞ  
ぞくぞくする〜  
相手は男でも女でも  
この手は効くのよ

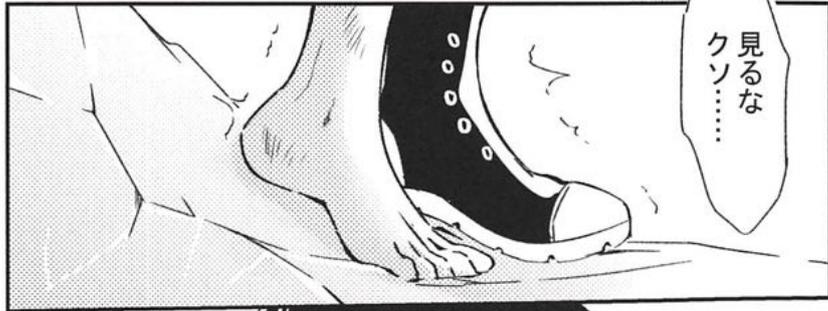






轟焦凍……  
なぜあなたは  
ここにいます







お前が嫌がっても  
救助隊が来るまで  
お前の熱傷を冷やすから

……勝手にしろ

その後、リカバリーガールに治療を受け、全身の熱傷がなかったようにきれいに治った



……チ



轟はあからさまに俺を避けるようになった  
まっ、もともとあいつとの接触は少なかつたけど

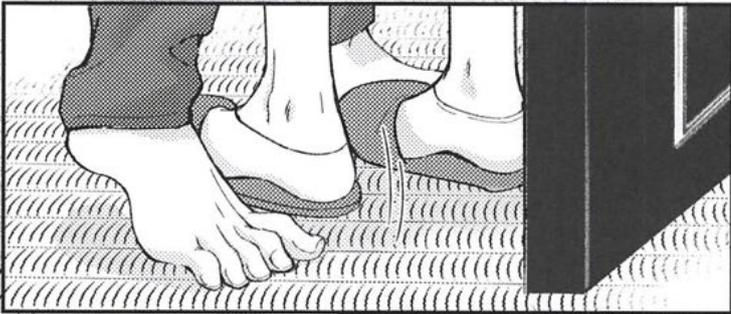


でも、あの出来事は傷みたように消えることにはなれない

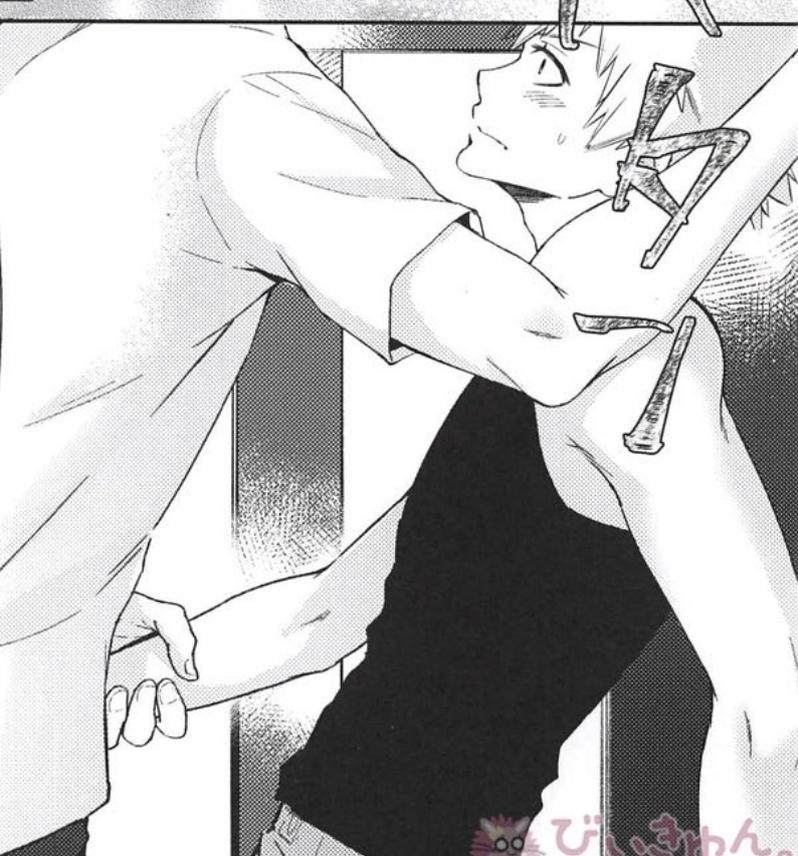




そんなに気持ち悪かったかよ



あの日から俺がどうやって  
過ごしてきたかお前は知らないだろう  
お前にあんなもん見せられたせいで……  
俺は……





分かったら  
早く俺から離れる

え?

そんなに  
きもかったかよ

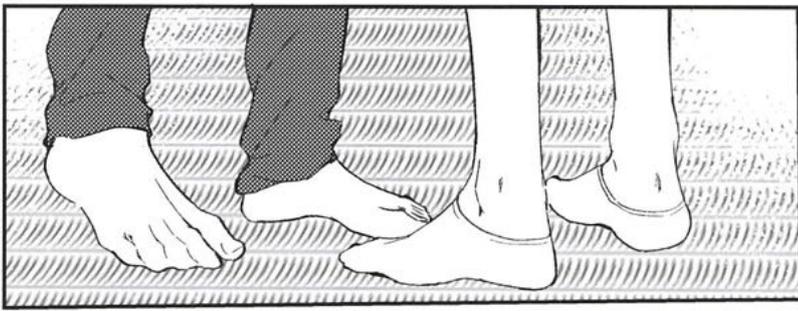
毎日お前の夢を見るし  
お前で抜いてきた  
その姿を見るたびに  
あの日みたいにその服を全部  
剥いてやりたいと思った

なんだよ  
そのぐらゐの理由で  
俺を無視するん  
じゃねえよ

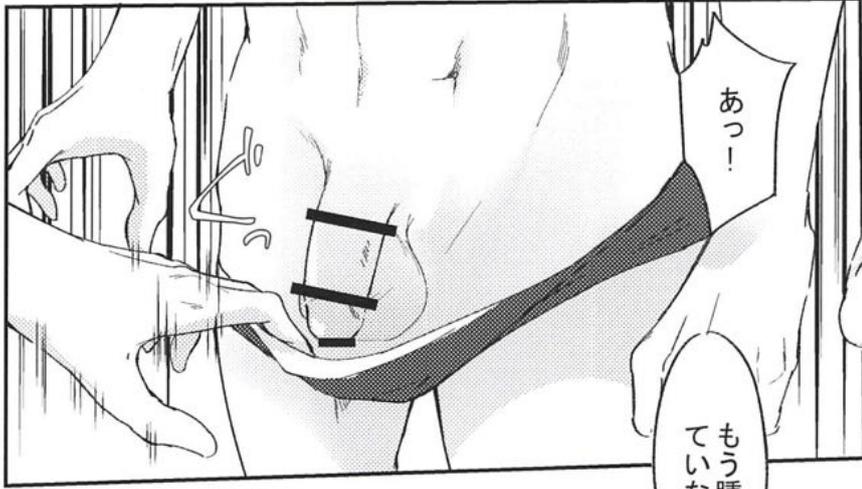
見せてやりやいだろ  
俺の裸……

……下もだ

……



これいいか



あっ!

もう腫れていない



腫れてるの  
見たいか



勃てるわ



勃てるのを  
見たい

あの時あんなに傷ついたから  
どうしても勃てる  
とこまでは想像できない



夢と違って  
爆豪のにおい  
がする

臭いなら  
舐めるな



あの時俺の手の中に  
やんわりしてて  
すごく可哀相に見えたので  
舐めて慰めればと思ってた

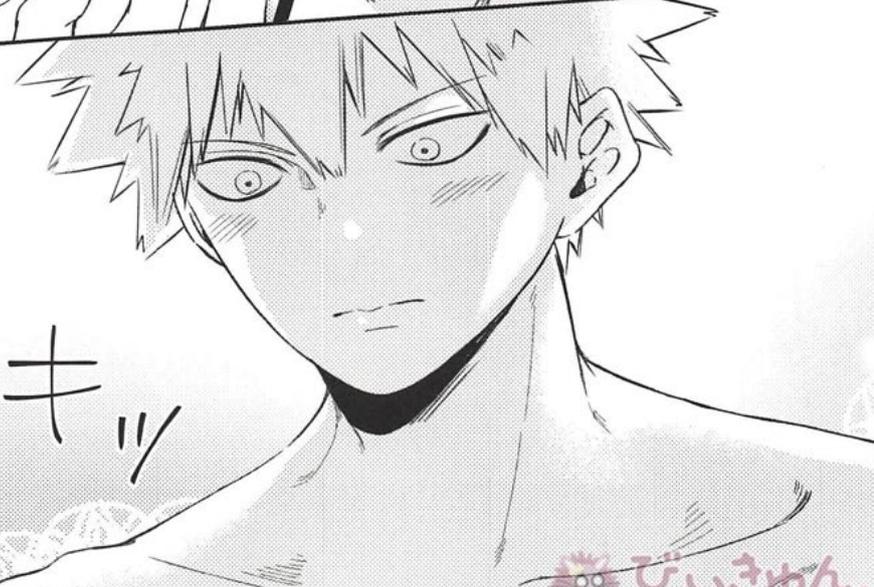


おい！  
何する気だ？

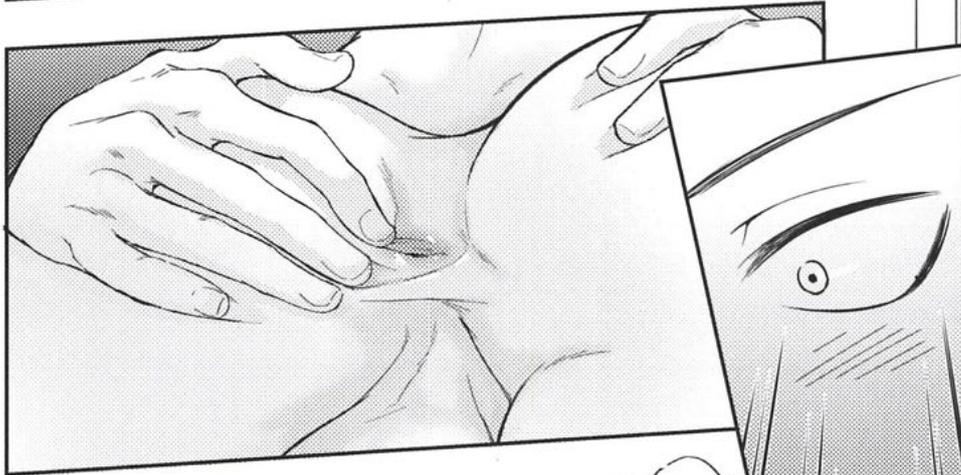


臭くない  
ぞくつとする  
においがする

ドキッ



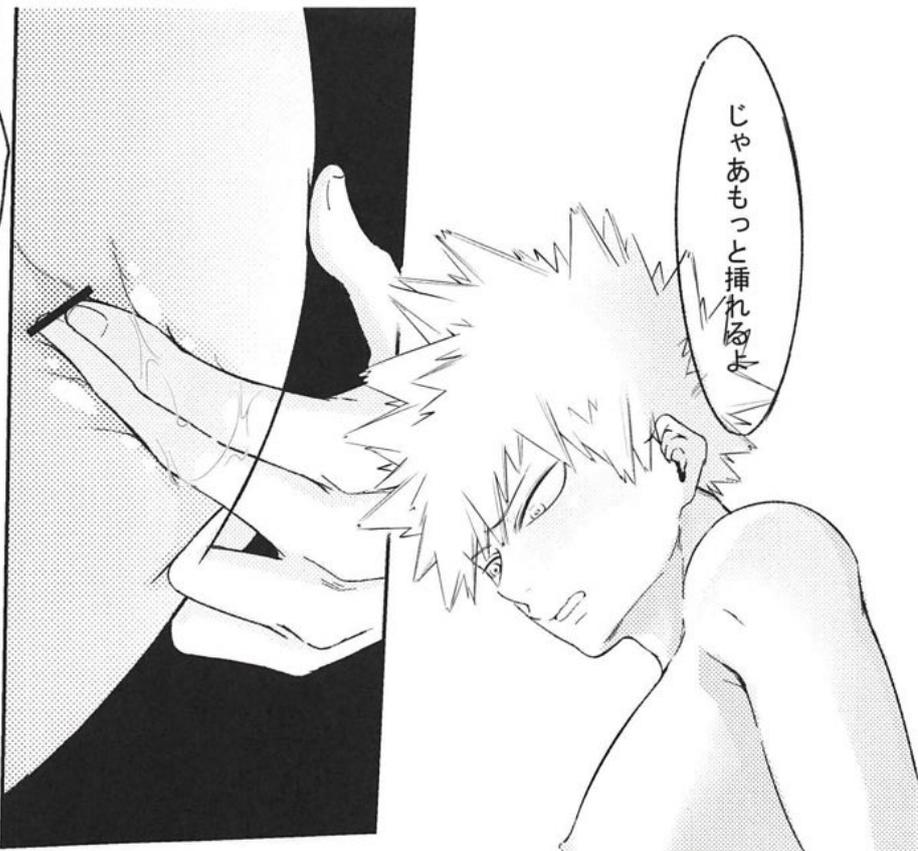






あ……ん

轟の口の中温かい  
指に触られてると  
気持ちいい……



じゃあもっとな挿れるよ



……どうにか  
してる

……いや  
俺は初めてからこの  
きれいな男に惹かれていた  
ずっとこの男に見てもらいたかった  
触れてもらいたかった



は

あ  
は



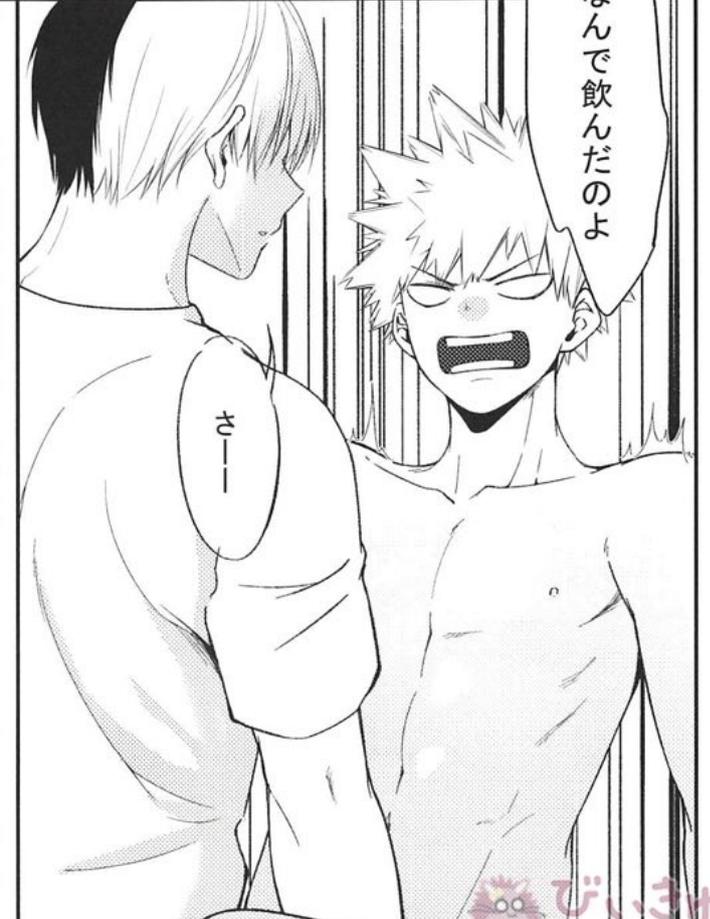
クソ……  
腰揺れるの止まらねー

轟……  
もう無理

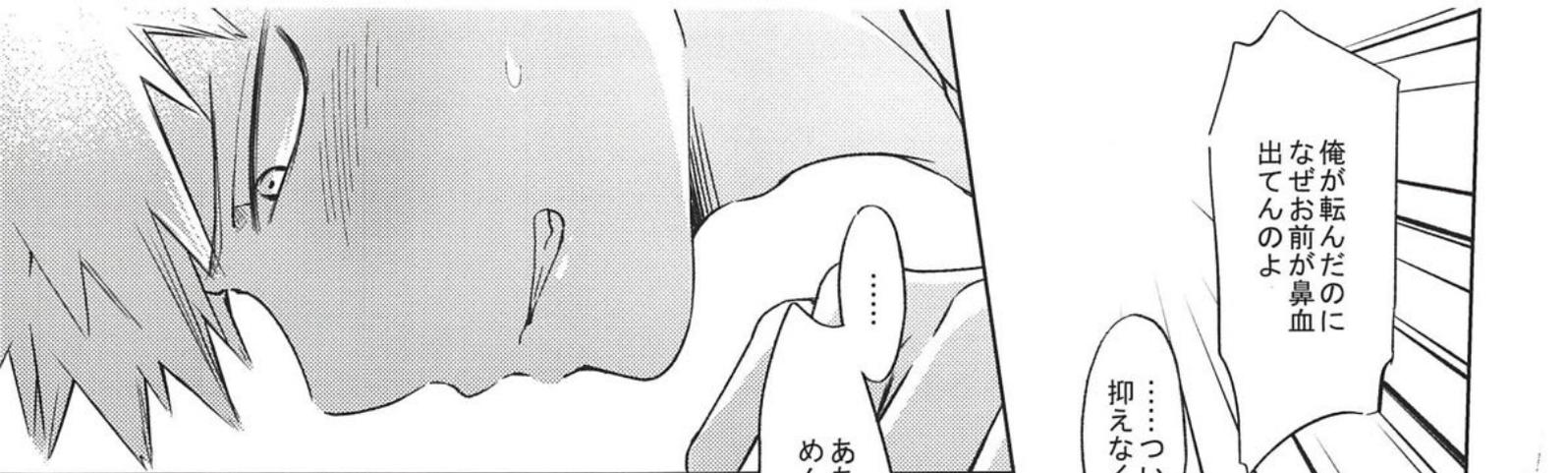
い……から  
散せ……

俺の口の中で  
イって……

あああ……







俺が転んだのに  
なぜお前が鼻血  
出てんのよ

……つい  
抑えなくて

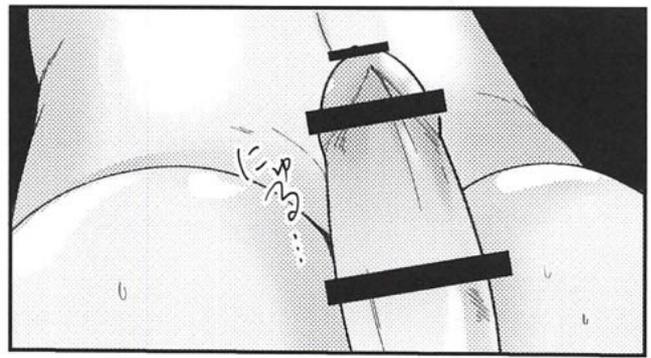
……  
ああ  
めんどくせー



ほら



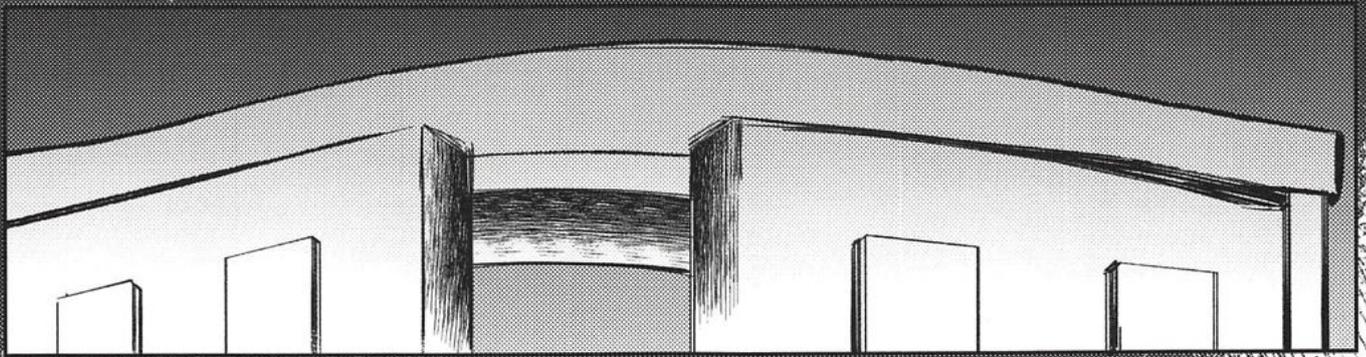
……  
爆豪











お前のそういう感情は  
ただ一時的の気の迷いだ  
俺のそういう姿を見て  
勘違いしただけ

ちがう！

……もういい  
俺の聞きたいことは  
聞いたから  
もう帰る

どうでもいいだろ

ならぶっして俺とやった



俺は今まで一方的に  
お前に惹かれていた  
だが、お前は違っ  
きつと一晩寝て  
今の気持ちを忘れてしまう

そうなるなら  
今夜だけを記憶に  
残せばいい



……



……!



信じてもらうまで  
俺が本気だという  
ことを証明してやる

気まぐれな訳ではありません。

轟焦凍×爆豪勝己

*My Hero Academia Unofficial Fanbook#01*  
*Todoroki Shoto×Bakugou Katsuki*

発行日：2018年8月10日

発行者：リュウ

発行：冷凍プリン

Pixiv: 17218700

Twitter: @Rehtoh\_6

印刷：栄光印刷

無断転載・複製・複写・オークション出品等のご遠慮ください。

気まぐれな訳ではありません。

*My Hero Academia Unofficial Fanbook#01*

*Todoroki Shoto×Bakugou Katsuki*

*presented by Rehtoh Pudding 2018.08*